

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年5月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 直進キープ田植機の現地導入が始まる

5月に入り、管内各地で水稲作付が本格化している。水田農業では、農作業における時間短縮や負担軽減に役立つ各種スマート農業機械が登場しており、農業法人や大規模農家は更なる規模拡大や経営改善をねらい、これら農業機械の導入を進めている。その中で、直進キープ田植機は圃場管理システムと並び現地への普及が進んでいるスマート農業技術である。

直進キープ田植機の直進植付は、自動運転が可能のためオペレーターの作業負担が軽減されるとともに、降雨後の湛水水田でも田植作業ができるメリットがあり、管内では、10台以上が現地で稼働している。

今後、農業普及課は効率的な水田農業の展開に向けて導入支援や効果検証を行いながら、スマート農業を推進していく。



【直進キープ田植機】

(地域支援第三係・松本 政行)

新たなブランドづくり

■ニンジン 春夏ニンジン出荷始まる

各務原市の春夏ニンジンのお荷が、5月10日より始まった。例年、出荷が始まる前に出荷目揃え会が開催されるが、新型コロナウイルス感染症対策で、目揃え会を開催せず資料配布で対応を行った。今年は、天候にも恵まれ生育、品質も良いと予想される。



【選果されるニンジン】

農業普及課では、春夏ニンジンで品質低下の要因となっている黒あざ症やしみ腐れ病を中心に対策を検討し、今後の指導につなげていく。

(地域支援第二係・水川 誠)

多様な担い手づくり

■スマート農業 ドローンによる農薬散布を実施

山県市の(農)おおがでは、「スマート農業技術導入支援事業」で導入したドローンを活用し、小麦の赤かび病防除と水田除草剤(1キロ粒剤)の散布を行った。

赤かび病防除では、強風時に薬剤散布を自動停止したり、薬液補給時の散布地点を記憶しており、補給後に再び同地点から散布開始するなどドローンの機能を活用し、設定した薬液量を正確に散布することができた。

一方、除草剤散布では、農薬の剤ごとにドローン機種の開度と回転数を合わせる必要となり、今後の課題となった。

農業普及課では、引き続きスマート農業を活用した中山間地域の営農モデル確立支援を支援していく。



【ドローン散布の様子】

(地域支援第三係・河合 浩子)

売れるブランドづくり

■だいこん 春だいこんの品種試験調査を実施

4月29日、岐阜市内のだいこん生産ほ場において、品種試験の調査を実施した。調査した5品種の中には、揃いと詰まりが良く、基幹品種として有望な品種もあった。

春だいこんは、抽苔や根の形状、内部品質、葉の品質等が課題となっている。高品質で安定生産できる品種の検索・導入を推進するため、農業普及課はJAぎふだいこん部会と連携し、品種試験を継続して支援していく。



【だいこん品種調査】

(園芸産地支援第一係・横田 京子)

■えだまめ 品種試験実証ほの収量調査開始

現地では、ハウス栽培、トンネル栽培、防虫ネット栽培の各作型に適応した高収量・高品質な品種が求められており、農業普及課では、えだまめ部会と連携し品種試験ほ場を設置している。

5月14日、ハウス栽培における品種試験ほ場の収量調査を実施し、有望品種の検討を行った。今後は他の作型でも調査する計画である。

農業普及課では、現地に適応した有望品種を見つけるため、継続して試験を実施していく。



【株姿の比較】

(園芸産地支援第一係・高井 啓)

■花き 新型コロナウイルスの影響に対する経営安定支援

5月10日の母の日に向けた出荷ピークが終わり、管内の花き生産者では新型コロナウイルスの影響が明確になってきている。緊急事態宣言の発令により消費動向の冷え込みが予想されたことで、予約注文数が大幅に減少し、4月下旬の販売は安価で推移した。

一方、5月に入り、ネット販売や量販店での販売が好調となったため引き合いが強くなり、単価が回復し、心配された状況は回避できた。しかし、販売額は著しく低下した昨年よりも更に低下し、経営状況の悪化が顕在化してきている。

農業普及課では、新型コロナ対策関連の融資を中心とした事業活用について支援を行っており、今後も経営改善を目指す生産者の支援を継続する。



【出荷を待つ鉢花】

(園芸産地支援第一係・福田 富幸)

■かき 県摘蕾講習会が県モデル園にて開催

4月30日から5月14日にかけて、県園芸特産振興会主催による摘蕾講習会が実施された。今年は新型コロナウイルス感染症対策の為、各振興会ごとの小グループに分け、異なる日付で実施された。

講習会では、農業経営課の農業革新支援専門員により、今年の生育状況および摘蕾方法について説明され、その後、各担当樹の摘蕾実習を行った。今年の着蕾量は平年よりやや少ないが、摘蕾は高品質・大玉生産には欠かせない作業であるため丁寧に行うよう指導がされた。

農業普及課からは、今後の作業、病害虫の発生状況等について情報提供を行い高品質なかきづくりに向けた支援を行った。



【実習風景】

(園芸産地支援第二係・小枝 俊仁、水野 文敬)